2019年、DMPは2回開催

東莞―香港―マカオを1本の道へ

DMPを主催するオルガナイザー・PCESは、会場でDMP2019の開催要領を発表した。その内容はニュービジョンで革新的であり、しかも今年は5月と11月、つまり2019年の1年間に21回目と22回目のDMPを開催するというもの。5月は「2019広東国際ロボティックス・インテリジェント機器博覧会」として、第21回DMP並びに広東国際総合ロボットソリューション博覧会が併催される。11月は「大湾区工業博覧会」の併催として、第22回DMPが新たな展示場の深圳国際展中心で開催される。

2019広東国際ロボティクス・インテリジェント機器博覧会

5月8～11日

2019広東国際ロボティクス・インテリジェント機器博覧会は、5月8～11日の4日間、広東現代国際展覧中心（中国広東省・東莞市・厚街）において80、000㎡の規模で、第21回DMPと広東国際総合ロボットソリューション博覧会が併催の形で開催される。

GIRIE EXPOは、"Made in China2025"のサブスローガンのもとに開催され、これまでDMPとGIRIE EXPOは、この2枚看板の一翼を担う展示会として東莞の発展を引っ張ってきた。このGIRIE EXPOが「広東国際総合ロボットソリューション博覧会」として独り立ちする。

これはGIRIE EXPOに対し中国が本格的に取り組むとの意思表示とされ、Industry4・0、IoTの中国版が、先行ブランドで遅れていることもあり、専門展にして強く発展しようとする意志の表れだろう。

DMPとしては、GIRIE EXPOが独り立ちしたとしても、相互に産業の発展に貢献してきたという実績をみれば、第21回DMPとして参加するということは当然のことであり、このことは出展社にとっても望むところであろう。

過去20年を振り返るとDMPは成長を続け、DMP2018は史上空前の規模になったが、2019年は第21回、第22回というこれまで経験したことのない年2回の開催となり、内容的には南中国のみならず、機械産業の世界規模のディスプレープラットフォームとなるか、内外の多大な注目集めよう。

なお、広東国際総合ロボットソリューション博覧会の主催は中国機械工業連合会（中国ロボット産業連盟）。

東莞はインテリジェント生産へ

東莞は、"世界の工場"として知られています。その効率の良い一体化された供給チェーン、優れた製造からロジスティックのお蔭で、東莞は、いまでは現代のリーダー的グローバル製造基地の1つとなりました。ここ10年間で、東莞は単なる製造からインテリジェント製造へ移行することに成功しました。大量の人的資源を当てにする使用中の伝統的機械は、徐々に自動化とインテリジェント生産へ置き換わってきました。

DMPは、東莞の産業発展を促進する目的で連続して20年間開かれてきました。技術・製品ともに精密機械・装置の展示が最大の特徴となったDMPは、産業のプロフェッショナルにとってはアイデアや知識の意見交換の場として、出展社にとっては彼らの最新の機械や技術を紹介する場として、製造者にとっては自身の工場設備で何が必要かを知る情報を得る場として、それぞれがプラットフォームとしての役割を担ってきました。

アジア中心のグローバル化が進む

DMPは年々大きくなっています。海外からの出展社・来場者も増え、新たなパビリオンが新設されるなど、アジア中心のパビリオンのグローバル化が進んでいます。また、平行して開催されるイベントも興味深く、それらは、国際先進製造産業（東莞）サミット2018、型材料と部品応用に関する国際会議2018、東莞CNC工具フェスティバル等々で、これらのイベントに業界のエキスパートやエリートが参加します。

最後に、出展社、政府機関、領事館、関係組合からの支援に心から感謝致します。私達、オルガナイザーは、DMPが産業の最良の貿易プラットフォームを創造し続けるよう厳しく努力します。すべての皆様がDMPで素晴らしい時を過ごされんことを。

有難うございました。

～DMP2018―東莞の産業発展に向け20年目～

2019はさらに大飛躍へ

Eddie Leung Tin Fu社長の挨拶

オルガナイザー・PCESのEddie Leung Tin Fu社長は、DMP2018開催に当たり次の通り挨拶した。

DMP2018は、中国東莞国際金型・金属加工機・プラスチックと包装展示会、広東国際ロボット・インテリジェント機器展覧会として20回目を迎えました。今回会場でご存知になった方々が多いとお思いますが、2019にはDMPを含む画期的な展示会を2回開催します。

1つは、5月に従来のDMPでもGIRIEで、すでに活発に取り組んでいたロボット・インテリジェントの分野を、「2019広東国際ロボティクス・インテリジェント機器博覧会」として開催します。これには第21回DMPが併催されます。

もう1つは、11月の"Greater Bay Area Industrial Expo"（2019大湾区工業博覧会）で、中国の華南部を核にし、湾岸諸国が共同して開く博覧会です。その中にDMPも第22回として含まれます。

華南の湾岸取り込み空前の規模

2019大湾区工業博覧会で併催

11月26～29日

2019大湾区工業博覧会（Greater Bay Area Industrial Expo）は、広東省産業情報技術省と東莞市人民政府が主催者となり、11月26～29日の4日間、深圳国際展中心において160、000㎡の空前の規模で開催される。この展示会で第22回DMPが併催される。

DMPと中国機械工業連合会（CMIF、中国ロボット産業連盟）は、2018年に産業用サミット「One Belt and One Road」にふさわしく、協力作業を行うことに同意しサインした。これはDMPとCMIFとが一緒になって廣東―香港―マカオの"Greater Bay Area"と"One Belt and One Road"のスローガンに沿う他の国々でも機械産業の発展を友好的にプロモートするもので、大湾区工業博覧会の開催に繋がった。

廣東―香港―マカオのGreater Bay Areaの発展計画として大湾区工業博覧会が、独特の同地域を地理学的に優位にする手段となり、香港・マカオ・廣州・深圳・東莞およびその他の地域が、友好的に経済と産業をこれまで以上に促進するとみられる。

5月の2019広東国際ロボティクス・インテリジェント機器博覧会と11月の2019大湾区工業博覧会が、技術自体の発展だけでなく、速いスピードで地域に発展をもたらし、また将来の産業の全般的方向性を示すことに疑いはない。

著者：フリーランサー・高橋亨（アーイン社）

8面からつづく

で、これを政府主導で現在に導いた。その政府の慧眼殺るべしである。慧眼でいえば、運営に根気よく携わったPCESの努力が大きく、政府の意図を汲み取り手をつないで進めてきたことが実績となった。

農業都市が、ロケーションに恵まれたものの、いま東莞は「中国製造業のハブ」「革新に優れた都市」「国内文明都市」等、様々に尊称されている。

東莞市のGDPは中国全体の20位以内だが、モバイル製品輸出は追随を許さない。なにしろ、世界の輸出量の20・5%を占めている。モバイルの他にエレクトロニクス、情報（IT）、電気機器・装置、家具、学、化学、エンジニアリングなどの先進的製品、精密部品が多く、精密は30産業と幅広い分野6万種以上の製品が製造されている。

企業数は74万社、そのうちおよそ5、400社が世界に知られた大企業で構成されている。業種は8千以上あり、大半は各産業の密製品・部品である。これまでの経緯、土地柄からしても、地域密着型の強固なローカル展だが、この「実需直結型」として高い評価を得て、この評価は揺るがない。

GIRIE EXPO　2019 DMP

2019広東国際ロボティクス・インテリジェント機器博覧会
2019 Guangdong International Robot and Intelligent Equipment Exposition
第21回 東莞 国際金型・金属加工、プラスチック・包装展
21st China Dongguan International Mould, Metalworking, Plastics & Packaging Exhibition
広東国際総合ロボットソリューション博覧会
Guangdong International Total Robot Solution Expo
中国機械工業連合会(中国ロボット産業連盟)
Co-organizer : China Mahinery Industry Federation (China Robot Industry Alliance)
規模：80,000m²
2019年5月8-11日
広東現代国際展覧中心（中国広東省・東莞市・厚街）

2019大湾区工業博覧会
Greater Bay Area Industrial Expo
第22回国際金型・金属加工、プラスチック・包装展
22nd China DMP International Mould, Metalworking, Plastics & Packaging Exhibition
空前の規模！160,000m²
2019年11月26-29日
深圳国際会展中心
Shenzhen World Exhibition & Convention Center

主催者：
広東省産業情報技術省
東莞市人民政府
日本総代理：
株式会社 ナード・インターナショナル
Tel:+81-6-6191-0005
E-mail: naad@oak.ocn.ne.jp
https://www.naadinternational.com

後援：
JPM Association of Japan Plastics Machinery 日本プラスチック機械工業会
Organizer：
讯通展览公司
Paper Communication Exhibition Services
Tel: 852-2763 9011, 86-20-8761 2356, 021-6304 5419
info@paper-com.com.hk　www.dmpshow.com

DMP2018　最大規模で熱気溢れる

2019年の革新的〝新構想〟発表

DMP2018が、2018年11月27日から30日の4日間、もう1つの大テーマ第4回GIRIE EXPOと並行して東莞市・厚街の廣東現代国際展覧センターで開催された。

DMPは今回で20回目とすっかり定着し、盛大な勢いをつけて産業界を引っ張っており、GIRIEは〝Made in China2025〟をスローガンとして、ロボティクス・インテリジェント機器を中心に、世界中で注目のIoT、Industry 4・0、を中核にした展示会となった。今回DMP、GIRIEの規模は史上最大となり、来場者の熱気が溢れた。

また特筆すべきは、この活況をバックボーンに、「2019年からDMPは1年に2回開催する」という革新的な計画が明らかにされたことだ。この計画は、別掲の通り、東莞―香港―マカオを1本の道に仕立て、中国南部の大半の省も参加する「2019大湾区工業博覧会」を、〝One Belt and One Road〟のスローガンのもとに立ち上げるものである。華南事業を一体化して進めてきたオルガナイザー・PCESが温めてきた「大構想」の実現である。

さらに米国による米中貿易摩擦による中国経済の失速、さらには世界経済への悪影響が懸念されている。

しかしながら広大な中国で、南中国(華南)は熱い。というのも、年々規模を拡大し今回20回目と、すっかり定着したDMPが盛大な勢いをつけて産業界を引っ張っているからだ。

数字を見ると、中国全体のGDPが6%前後を推移しているのに対し、華南の伸びは産業によっては10%を超すところもあり、平均でも8・5%以上と高い。この傾向はここ数年一貫して変わらず、この地域は減少を知らない。

DMPで華南は〝熱い〟

DMPは、国際金型・金属加工、プラスチック・包装展の総称で、プラスチック成形加工関連の一大イベントであるが、今回はDMP2018、GIRIE EXPOの他に、第5回華南国際シート・メタル&レザー機器展、第8回国際(東莞)キャスティングショー、第4回3Dプリンティングショー、第14回東莞国際電気ーメッキ、表面処理&コーティングショー、2018DMPハードウエア&工具ショーが併催された。

このところ中国のGDPが鈍化しているといわれ、

出展社21%増、小間15・5%増

まず史上最大となった全体の規模を示す(表1～3)。これらの表をみてまず驚くのは全体で1、675社に上った出展社数だが、これは前年比21%増に

のぼり大躍進となった。小間面積は64、631㎡で同15・5%増と驚くべき伸び率である。入場者数は123、708人の同2・4%増で、出展社数、小間面積の伸び率に比べれば少ない伸びとなった。もっとも、来場者は前年の2017年が2016年対比2桁の伸びをみせていたので、総体的な伸びは充分あったとみてよい。

表1　過去6年間の開催規模の推移　(カッコ内：前回比伸び率)

年度(回)	ホール面積(㎡)	小間面積(㎡)	出展社数(社)	入場者数(人)
2013(第15回)	75,989(3%増)	40,663(8%増)	1,194(8%増)	81,300(2%増)
2014(第16回)	85,554(13%増)	43,260(6%増)	1,226(3%増)	87,495(8%増)
2015(第17回)	99,403(16%増)	46,679(8%増)	1,318(7%増)	107,200(22%増)
2016(第18回)	106,082(7%増)	49,969(7%増)	1,372(0.7%増)	110,052(3%増)
2017(第19回)	113,658(7%増)	55,946(12.1%増)	1,381(0.7%増)	120,799(10%増)
2018(第20回)	123,934(9%増)	64,631(15.5%増)	1,675(21%増)	123,708(2.4%増)

表2　2018DMP国別来場者数の割合　カッコ内2017年

中国	95%(93%)
香港SAR、マカオSAR、台湾	3%(3%)
日本、ドイツ、韓国、その他	2%(4%)
合計	100%(100%)

表3　DMP2018国別出展社数

中国	1,535	ドイツ	(23)	オーストリア	(3)	シンガポール	(1)	カナダ	(1)
香港SAR	78	スイス	(11)	韓国	16(3)	フランス	2(1)	オーストラリア	(1)
日本	65(59)	アメリカ	(8)	スウェーデン	(3)	イスラエル	2(1)	インド	(1)
台湾	41(1)	イタリア	6(5)	イギリス	(1)	オランダ	(1)		
合計	1,675社、内海外124社(18カ国)								

カッコ内は現地企業・代理店からの出展数

新海外企業と日本企業の増加目立つ

今回の出展社の特長の1つは海外企業が増えたことがあげられる。詳細は表3の通りで、新規参加は、イタリア、フランス、オランダ、カナダ、オーストラリア、インドの6カ国だが、数は少ないものの、従来にはなかった国々の初出展は、DMPが徐々にグローバル化しつつあることの表れであり、中でもヨーロッパ諸国の技術に触れ、大国・インドの需要に触れる好機となったのではないか。これを契機にさらなるこれら海外諸国の出展が増える予兆がある。

もう1つは、日本企業の参加が増えたこと。多くは現地法人からの出展だが、日本企業の場合、現地と国内の技術は同レベルなので、コスト・パフォーマンスからみても高付加価値製品成形でトップをいく製品を出展した。

国別出展社数でみると、表1に見るように、中国が前年比21%増の172社増え、1、535社となった。驚くべき参加社増であり、世界中の展示会でこの伸びを見るのは難しい。次いで数は少ないが、海外企業が初めてのケースを含め前回の12カ国から17カ国に及び、出展社数124企業となった。日本企業にも力がはいり、日本は25社増えて65社となり、これも史上最大を記録した。

これらを見ると、DMPは地域に密着した実需直型展示会といわれたが、さらに今回はグローバル化進む兆しが見える、より展性あるDMPとなったここに2019年から年回実施する〝強い意欲と信〟を感じとった。

ブランド企業多い出展社

出展社の中には、バイヤーとして世界に知られた企業が多く、機械では、Haas(アメリカ)、Emag(ドイツ)、Roeders、Tornos Blum、Exeron、Renishaw(イギリス)、Erowa(スイス)、それに、ソディック、ファナック、三菱、三豊、山善など日本勢、さらに諸国の大企業などが出展、プラスチック・包装では日本製ブランドが圧倒的に多かった。それに中国の海天、Topstar、Beijing Jingdiao、Bystronic DNE、Han's Laser、Zeissなどの著名企業が出展した。

プラスチックの出展製品でいえば、成形機、ロボット、自動化機器、インテリジェント機器、合理化機器など、これまでと大きな変わりはないが、トレンドとして1つあげると5Gをにらんだ IT部品が多くみられた。

新たな専門展に期待

一方、GIRIE分野では、Industry 4・0、IoTが進んだものの、まだ完成品としての実演は見なかった。中国のMade in China 2025は、他国の内容に比べまだ追いかける段階とみた。それでも、2019年よりロボット・インテリジェント機器分野を第一タイトルとした展示会が開かれるので、関係出展企業には出展への拍車がかかった。

東莞が変えた！

東莞は、これまで地道に根気よくブレずにDMP開催を積み上げてきた。オルガナイザー・PCESの根気によるところが大だが、主催者の中国機械工業連合会、広東省産業情報技省、東莞市人民政府の三の強力な後押しを忘れてならない。

以前は広大な農業地

今回発表された、5月開催されるロボット・インテリジェント機器・システムを謳った展示会で、DMPは21回目を、さらに11に開催される人湾区工業覧会では22回目を開催するが、これは大革新であり年2回もの展示会を実行する力があることに驚嘆すばかりだ。

9面につづく

DMP 2018レポート(上)

開会セレモニー

混雑する入場所付近

登記所近辺も大混雑

大賑わいの展示ホールの目貫通り

いっぱいの入場者に説明もスピーカーで